

千曲川源流
4Km

甲武信岳

バスと電車 徒歩で

信濃川(千曲川)源流を訪ね、 源流と最下流の「みずつち」を考える旅

日時 **2013.8.26(月)~27(火)**
参加費 **¥12,000円** (1泊2日4食、電車賃込)
宿泊地 **金峰山荘** 長野県南佐久郡川上村大字川瀬下546-2
募集数 **40名**
締切り **8月15日**
(定員になり次第、募集を締め切ります)

白樺林の中の宿で、満天の夜空を眺められます

旅の案内役



NPO 法人新潟水辺の会代表、新潟大学名誉教授、
映画『阿賀に生きる』制作などに取り組む
主な著書 『利根川治水の変遷と水害』(東大出版会)
『洪水と治水の河川史』(平凡社)
『川がつくった川、人がつくった川』(ポプラ社)
『技術にも自治がある』(農文協)
『ローカルな思想を創る』(農文協)
共著 『社会的共通資本としての川』(東大出版会)

新潟市の中心部を流れる信濃川は、甲斐(山梨)、武蔵(埼玉)、信州(長野)の3県境に位置する甲武信岳(2,475m)に源流があります。最下流部の新潟市は、信濃川(年間流量 160 億 m³)のもたらす豊穡な水と土によって出来上がり、その多大な恩恵を受け、市民は大いなる親しみを信濃川に抱いています。

私たちは、長野県の千曲川(214km)が信濃川(153km)より長いことや、上流部の川の歴史や文化、利用状況、水環境の様子など、知らないことが多くあります。そこでもっと深く知ることを目的に、信濃川をバスと電車ですべて一日かけて見て学び、源流の郷・川上村で宿泊、翌日は甲武信ヶ岳山頂直下の源流 3km地点までを徒歩で訪ね、信濃川 364kmを実体感する旅です。

新潟を育んでいる「水」と「土」の源流を訪ねることは、新潟市の新たな魅力の発見につながります。なお、講座および案内役は信濃川を良く知っている当会の大熊孝代表(新潟大学名誉教授)が担当します。

◆主催：NPO法人 新潟水辺の会

お問合せ先 新潟水辺の会 事務局 電話 025-264-3191

E-mail ecoline@mvd.biglobe.ne.jp

第4回 信濃川大河塾

バスと電車 徒歩で

みすつち文化創造2013市民プロジェクト申請中

「信濃川(千曲川)源流を訪ね、源流と最下流の「みすつち」を考える旅」



JR東日本の宮中取水ダム



東京電力の西大滝ダム



小海線と千曲川



清流千曲川と浅間山



信濃川の歴史、川利用、川文化の説明 源流の郷・川上村について講座

◆ 8月26日 (月) 1日目 ☑ OAM7:00 新潟駅南口集合 7:10 出発

北陸自動車道～関越自動車道⇒越後川口 PA(信濃川蛇行部説明)⇒宮中取水ダム(改装された魚道と魚道観察室見学)⇒バスで移動⇒越後田沢駅 11:34 発に乗車⇒飯山線より信濃川、千曲川を体感⇒西大滝駅下車⇒西大滝ダム魚道見学⇒バスで移動信濃川上流・川上村へ(高原のレタス畑見学)

◆ 8月27日 (火) 2日目 ☑

7:40 宿を出発⇒毛木平駐車場⇒源流 3km までトレッキングし、千曲川源流を体感⇒バスで移動⇒野辺山駅 11:52 発に乗車⇒小海線の車窓より八ヶ岳、千曲川、浅間山⇒小諸駅下車⇒小諸城より千曲川を眺め⇒上信越自動車道～北陸自動車道⇒新潟へ

18:30新潟駅で解散

参加申込書 (締切 8月15日)

フリガナ 氏名		住所	〒	
所属		電話		携帯
		E-mail		

- ※ この表を 025-264-3260 に FAX するか、下記の問い合わせ先(アドレス)へ同内容をメールしてください。
- ※ 主催側で傷害保険をかけています
- ※ いただいた個人情報は、この行事に関わる名簿整理の他には使用いたしません